第５学年１組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　５年１組教室　指導者　竹尾　紗菜

１　主題名　　親切な思い（B親切、思いやり）

（教材名：くずれ落ちただんボール箱　出典：生きる力５【日本文教出版】）

２　目　標

親切、思いやりは、相手に認めてもらいたい心ではなく、一心に相手のためを思い自分にできることをしようとする心から生まれることに気付き、思いやりの心で親切にしようとする心情を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「親切、思いやり」とは、相手の気持ちや立場を考え、相手のためになることを進んで行おうとする心である。しかし、親切な行動は、必ずしも相手に感謝されたり、周囲に理解されたりするとは限らない。そのようなときにも、相手のことを第一に考え、自分の気持ちや都合だけでなく、相手の気持ちや立場を大切にしながら行動することが真の思いやりにつながる。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童は、明るく元気な児童が多く、休み時間や学校行事などでも友達と積極的に関わろうとする姿が見られる。また、困っている友達に声を掛けたり、係活動や当番活動に進んで取り組んだりするなど、思いやりのある行動も多く見られる。一方で、相手の気持ちや考えを思って親切にしたにもかかわらず、「ありがとうと言ってもらいたい」とか「せっかくしてあげたのに」などと、自分の考えで行動してしまう姿も見られる。そこで、本教材を通して、親切とは、相手に認められたい心ではなく、困っている相手の気持ちや立場を考え、本当に相手のためを一心に考えて行動することであることに気付くことで、これからの生活の中でも、自分のことだけでなく相手のことを大切にしながら、思いやりのある行動をしようとする態度を育てたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・本教材は、「親切にしたのに怒られてしまう」という、子どもたちにとって意外性のある出来事が描かれている。そのため、「自分だったらどうするだろう」と主人公の立場に立って考えやすく、教材の内容に引き込まれやすい。
・主人公たちは、困っているおばあさんを助けたいという思いから行動したにもかかわらず、店員から誤解されて注意されてしまう。そこで、「なぜ主人公は怒られたことをおばあさんに伝えなかったのか」を考えることを通して、自分の気持ちよりも相手の気持ちや立場を大切にする思いやりについて考えることができる。

〈こんな手だてで〉

・店員に注意された場面で、主人公たちの悔しさや納得できない気持ちに十分共感させることで、「自分だったらどうするだろう」と主人公の葛藤を自分のこととしてとして考えられるようにする。
・「怒られたことをおばあさんに話せば自分の気持ちは楽になるのに、なぜ話さなかったのか」を中心に考えることで、自分の気持ちよりも相手の気持ちや立場を大切にした主人公の思いやりに気付き、本当に相手のためになる親切について考えを深められるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・相手の気持ちや立場を考えながら、本当に相手のためになることは何かを考え、進んで思いやりのある行動をしようとする思いを高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

指導に当たっては、まず、「助けた時に悪く言われたら、どんな気持ちになりますか」という問いを通して、親切にしたのに嫌な思いをした経験や考えを引き出す。そこで、「本当に相手のためになる親切とはどんなことだろう」という課題意識をもつことができるようにし、教材への興味・関心を高めたい。

展開では、おばあさんを助けた二人の行動に着目し、「困っている人の力になりたい」という親切な思いから行動したことを押さえる。また、店員から注意された場面では、親切にしたのに誤解され、悔しさや納得できない気持ちになった二人の心情に共感できるようにしたい。そのために、中心発問では、「『わたし』は店員に怒られたことをおばあさんに伝えなかったのはどんな思いからか」について考える。ここでは、自分たちはお礼を言ってもらいたいから親切にしたのではなく、自分の気持ちよりもおばあさんの気持ちや立場を大切にした主人公の思いに気付けるようにしたい。そして「めあて」に戻り、本当の親切とは、相手に認めてもらいたい心ではなく、一心に相手のためを思い自分にできることをしようとする心から生まれることについて考えを深めたい。

終末では、今日学んだことを振り返り、今後の生活に生かそうとする意欲を高めたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　親切について考える。（3）	困っている人を助けたのに悪く思われたらどんな気持ちになりますか			
	・悲しい。 ・嫌だ。	・せっかく助けたのに嫌な気持ち。	・よいことをしたつもりだったけれど分かってもらえなくて悲しい。	※「悲しい」「悔しい」「納得できない」などの発言を引き出し、助けたのに認められない理不尽さを感じ取りやすくする。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　本当に相手のためになる親切とはどんなことだろう			
	・困っている人を助けること。	・相手が困っているときに、自分から声をかけて助けること。	・その場だけでなく、相手の将来や成長も考えて行動すること。	※めあてに対する授業前後の考えを比較させながら、本当に相手のためになる親切について振り返らせ、相手に認めてもらうことよりも、一心に相手を思って行動することの大切さに気付けるようにする。
3　ふたりの思いを考える。（5）	二人はどんな気持ちからおばあさんを助けることにしたのでしょう			
	・かわいそうだったから。 ・困っていたから。 ・助けた方がいいと思ったから。	・おばあさんが困っていたから。 ・段ボールがたくさん落ちていて大変そうだったから。	・おばあさんが困っているのを見て、『自分だったら助けてほしいな』と考えて、おばあさんの立場になって行動したから。	※「困っていたから」「かわいそうだったから」などの表面的な意見を受け止めながら、「何に困っていたのか」「どんな様子を見てそう思ったのか」と問い返し、二人の心情を具体的に考えられるようにする。
4　注意されてしまったふたりの気持ちを考える。（7）	「困った子たちね。」と店員さんに注意された二人は、どんなことを考えていたのでしょう			
	・嫌だった。 ・悲しかった。 ・怒られて嫌だなと思った。	・何も悪いことをしていないのに怒られて納得できなかった。	・おばあさんを助けようと思ってしたことなのに、事情を知らないで怒られて悲しかった。	※親切な行動が誤解された状況を押さえ、二人の悔しさや納得できない気持ちに共感できるようにする。 ※二人の気持ちに十分寄り添わせることで、中心発問での葛藤をより深く考えられるようにする。
5　相手を思いやる「わたし」の気持ちを考える。（２０）	注意されたことを戻ってきたおばあさんに伝えなかったのは『わたし』のどんな思いからでしょう			
	・言わない方がいいと思ったから。 ・おばあさんがかわいそうだから。 ・心配させたくなかったから。 ・お礼を言ってくれたから。	・おばあさんに心配をかけたくなかったから。 ・怒られたことを聞いたら、おばあさんが悲しい気持ちになると思ったから。	・本当は怒られたことを話したい気持ちもあったと思うけど、おばあさんに言ったら、『自分のせいで怒られてしまった。』と申し訳ない気持ちになると思ったから。自分が嫌な思いをしても、おばあさんにはそんな気持ちになってほしくなかった。	※自分の気持ちよりも相手を大切にした主人公の心情を捉えさせ、本当の親切について考えを深められるようにする。 【キーワードとなる児童の発言】 「自分の気持ちよりも、おばあさんの気持ちを大切にした」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「『わたし』が一番大事にしようとしていたのはどんな思いだろうか」
6　本当に相手のためになる親切について考える。（4）	本当に相手のためになる親切とはどんなことだろう			
	・困っている人を助けることだと思った。 ・やさしい気持ちで相手に接することだと思った。	・相手の気持ちを考えながら助けることが、本当に相手のためになる親切だと思った。	・相手から感謝されたり認められたりすることを求めずに、その人のためになることを考えて行動することだと思った。	※物語の内容をまとめるだけでなく、主人公の気持ちの変化を振り返らせながら、感謝や見返りを求めるのではなく、一心に相手のことを思って行動することの大切さに気付けるよう支援する。
7　振り返り（5）	今日の授業で新しく学んだことを振り返ろう			
	・困っている人がいたら助けたいと思った	・親切はただ助けるだけでなく、相手の気持ちを考えることだと分かった。	・本当に相手のためになる親切とは、自分の気持ちよりも相手の気持ちや立場を考えて行動することだと分かった。	※主人公の思いを振り返らせながら、親切や思いやりは相手に認めてもらいたい心ではなく、一心に相手のためを思い自分にできることをしようとする心から生まれることに気付けるようにする。

（4）評　価

・相手の気持ちや立場を考えながら、本当の親切とは認めてもらいたいからではなく、一心に相手のことを思ってしていることなどについてを考え、思いやりのある行動をしようとする実践意欲を高められたか。

（発言・ワークシート）